

弥生から時を越えて

青谷上寺地遺跡の変遷 (一)

弥生時代前期末～中期前葉
(約2200～2100年前)

青谷上寺地遺跡で見つかった物としては、縄文時代晩期(約2700前)の土器が出土していますが、その数はわずかで、生活の跡(遺構)は見えません。

青谷上寺地遺跡の中心部

青谷上寺地遺跡

である微高地に、人々が生活し始めたのは、弥生時代前期末の約2200年前。方形に区画された溝や建物の柱穴と考えられる穴、不整形で用途不明のくぼみなどが確認されています。

無数の穴が切り合っているため、何棟の建物が建っていたのか確認できませんが、高床建物が建ち並ぶ景



▲方形に区画された溝

観が想像できます。また、1棟1棟の建物を区画するように「コ」の字状に溝が掘り込まれ、その区画する方向が規則性をもち、後の時代にも踏襲されていきます。

潟湖と接する微高地の縁には、当時のゴミ捨て場である貝塚が形成され、漁業が行われていたことを示しています。

また、低湿地では水田跡が確認されるとともに、木製の農具が出土していることから、この頃の生業における農業の占める割合が低くなかったことを物語っています。



「星」を見上げて 大気環境を 知ろう！！

「全国星空継続観察(スターウォッチングネットワーク)」をご存知でしょうか。毎年夏冬の2回、環境省主催で行われている夜空の観察です。何を観察するかと言えば、日本全国で決まった時間に「天の川が見えるかどうか」を双眼鏡を使って、「夏はこと座のベガ付近の星、冬はおうし座にあるすばるの星の見え方」を観察します。「見えてよかった」というものではなく、見え方を継続して観察することによって、大気環境が以前に比べ良くなったか悪くなったかを判断するものです。昭和63年から実施されている事業で、全国で毎回延べ7000人以上の参加者があります。さじアストロパークも夜空の状態を知るためにオープン以来、毎回参加しています。今年度の冬の観察会は1月1日から1月14日の期間になっています。さじアストロパークでも期間中、晴天時の夜6時～8時には随時観察を行っています。「自分が住んでいる場所の夜空の状態が知りたい」「観察方法が知りたい」と思われる方は一度観察会に参加してみてください。



佐治天文台長 香西洋樹の「星物語」 vol.3 プラネタリウム

佐治天文台でもっとも人気があるのがプラネタリウムです。お天気にかかわらず、いつでも本物に近い星空がうつし出されるからでしょうね。丸い天井に夕方の景色が写され、しだいに暗くなって来ると星々の輝きが強くなり、星の数も多くなってきます。「今晚の星空」が頭の上に広がります。リクライニングシートがベッド代わりに眠気を誘います。しかし、目を見はって見つめましょう。星の数ほど星が見えてきます。しばらくするとさじアストロパークの研究員の声が聞こえます。今晚の星座案内です。そこで繰り広げられるのはギリシャ神話の物語ですね。太陽の通り道にある12個の星座が黄道(こうどう)12星座、または獣帯(じゅうたい)と呼ばれる星座たちです。星座占いに使われる星座たちで、もっとも古い星座です。この黄道の南北に広がるのが英雄や獣たちです。夏空のさそり座、冬空のオリオン座などは特に有名ですが、秋の夕方の真上には有名なカシオペア座やベガサス座などの「エチオピアの王家の星座」が見えます。

StarWorld
見上げてごらん